

春日蔵首老の歌一首

二八二番

つのははふ 警余も過ぎず 泊瀬山 何時かも越  
えむ 夜はふけにつつ

高市連黒人の歌一首

二八三番

住吉の 得名津に立ちて 見渡せば 武庫の泊ゆ  
出づる舟人

春日蔵首老の歌一首

二八四番

焼津辺に 我が行きしかば 駿河なる 阿倍の市  
道に 逢ひし見らはも